

年 度 評 価 シ ー ト

課名 文化振興課

施設の名称 静岡市民文化会館・ 静岡市清水文化センター	指定管理者名 静岡市文化振興財団共同事業体
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>平成 24 年度は、公益財団法人静岡市文化振興財団、株式会社アス、株式会社 N T T ファシリティーズの 3 者の共同事業体による指定管理期間の 2 年目を迎えた。</p> <p>静岡市民文化会館はダンパー等改修工事の実施により、平成 24 年 12 月 1 日から平成 25 年 3 月 10 日まで全館休館した。また、静岡市清水文化センターは平成 24 年 7 月 31 日をもって閉館した。</p> <p>(1) 維持管理業務</p> <p>【静岡市民文化会館】</p> <p>「建築設備運転保守管理業務」など 12 件の施設管理業務、「電話設備保守点検業務」など 15 件の保守点検業務について指定管理者自ら又は第三者委託により、各業務とも事業計画に従って適切に実施した。</p> <p>また、高圧受電設備修繕（6 月）、音響設備機器修繕（10 月）、井水受水槽漏水修繕（1 月）など 36 件の修繕を指定管理者の発注により実施した。</p> <p>【静岡市清水文化センター】</p> <p>「建築物環境衛生管理業務」など 5 件の施設管理業務、「エレベーター保守点検業務」など 2 件の保守点検業務について指定管理者自ら又は第三者委託により、各業務とも事業計画に従って適切に実施した。修繕は実施しなかった。</p> <p>(2) 施設利用者数</p> <p>【静岡市民文化会館】</p> <p>平成 24 年度の利用者数は 376,034 人、施設利用率は 63.2%であり、平成 23 年度（利用者数 487,184 人、施設利用率 64.0%）と比較し、利用者数は 22.8%の減少、施設利用率はほぼ横ばいとなった。利用者数の減少は改修工事による 3 か月強の休館の影響が大きいが、平成 24 年度の利用者数を開館日数（224 日）で割った 1 日当たりの平均利用者数は 1,679 人であり、平成 23 年度（開館日数 307 日）の 1,587 人に比べ増加した。</p> <p>① 大ホール 171,243 人（利用率 67.0%）</p> <p>② 中ホール 105,861 人（利用率 81.7%）</p> <p>③ 大会議室 21,749 人（利用率 70.5%）</p> <p>④ 1～6 会議室 22,413 人（利用率 60.9%）</p> <p>⑤ A～C 展示室 44,766 人（利用率 56.9%）</p> <p>⑥ リハーサル室 10,002 人（利用率 65.6%）</p> <p>【静岡市清水文化センター】</p>	

平成 24 年度（4 月～7 月）の利用者数は 25,393 人、施設利用率は 48.2%であり、平成 23 年度の同時期（利用者数 30,526 人、施設利用率 45.5%、ただし平成 23 年 12 月に閉館した大ホールを除く）と比較し、利用者数は 16.8%の減少、施設利用率は 2.7%の増加となった。利用率の増加は施設閉館に伴う記念事業が多く催されたことによるものと考えられる。

- ① 中ホール 8,289 人（利用率 60.2%）
- ② 会議室 1,850 人（利用率 40.9%）
- ③ 和室 1,395 人（利用率 20.4%）
- ④ ギャラリー 13,859 人（利用率 56.3%）

（3）事業実施状況

【静岡市民文化会館】

主催事業は「松竹大歌舞伎」、「静岡コミュニティダンスプロジェクト」、「平成 24 年度公共ホール演劇ネットワーク事業」、「演劇カタログワークショップ」を中心に、概ね良好に実施された。

「松竹大歌舞伎」は中ホールで毎年実施している公演事業であり、静岡市文化振興ビジョン（以下「ビジョン」という。）の施策「伝統文化事業の推進」に基づき、市民が伝統芸能に触れることのできる機会の充実に貢献している。特に、公演事業前に歌舞伎の魅力や楽しみ方を紹介する歌舞伎講座を昨年度に引き続き開催し、昨年度（179 人）を超える 215 人の参加があり、公演への誘客につなげるとともに伝統芸能の親しみやすさ向上に努めたことは評価できる。

「静岡コミュニティダンスプロジェクト」は平成 23 年度から 3 年計画で実施している財団法人地域創造の助成事業の 2 年目であり、昨年度（20 事業）に引き続き本施設を中心に公演やワークショップなどアウトリーチ活動も含めた 17 事業を実施した。ビジョンの施策にもある「芸術文化の鑑賞機会の充実」のみならず、市民自らがダンスという身体表現を通じたコミュニケーションについて学ぶ機会の提供、ファシリテーター養成など、「文化と触れ合える環境づくり」、「文化活動を担う人材・組織の育成」にも貢献している。一方、17 事業中 6 事業の参加者数が目標者数の 8 割未満であるため、広報体制及び事業自体のあり方の検証を踏まえ、今後の事業実施に活かしてほしい。

「平成 24 年度公共ホール演劇ネットワーク事業」及び「演劇カタログワークショップ」も、ダンスと同様にワークショップやアウトリーチ活動を通じ、市民が気軽に演劇の持つ魅力に触れる機会を提供し、ビジョンの施策である「文化活動を担う人材・組織の育成」に貢献した事業である。また、静岡出身及び地元で活躍するアーティストらが脚本・俳優・スタッフを務める「エスパルスオフィシャルダンスミュージカル」が制作され、平成 25 年 7 月の公演に向けた脚本作り、出演者オーディション、稽古等が行われた。これは市民球団（清水エスパルス）という「地域資源と文化事業の連携」であり、公演の成功を期待したい。

主な主催事業の実績は以下のとおり。

- ① 松竹大歌舞伎（9/2、中ホール） 1,339 人
- ② 静岡コミュニティダンスプロジェクト Vol.2 ワークショップ（5/25～3/26、リハーサル室他） 623 人
- ③ 踊るひつじプロジェクト公演（8/18,19、中ホール） 282 人
- ④ 演劇ネットワーク事業公演「あなた自身のためのレッスン」

(10/27, 28、中ホール) 160人

⑤ 演劇カタログワークショップ (6/16, 3/16, 17、リハーサル室) 63人

【静岡市清水文化センター】

主催事業である「春風亭昇太独演会」は本施設で毎年実施している「伝統文化事業の推進」に寄与するものである。本施設最後の主催事業公演としてチケットが即日完売するなど好評を得た。

主催事業の実績は以下のとおり。

① 春風亭昇太独演会 (5/30、中ホール) 507人

2 市民(利用者)からの意見・要望の内容とその対応状況の評価(クレーム対応 等)

対応を求められる特筆すべき意見・要望はなかった。

利用者の意見・要望には常時意見箱を設置し、職員全員の情報共有、速やかな対応に心掛けるなど、指定管理者自ら対応図を作成し実施しているほか、平成24年度は運営業務担当職員9名が指定管理者組織内の接遇研修に参加し接遇向上に努めた。

3 市民(利用者)へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

【静岡市民文化会館】

主催事業の内容に対する満足度調査を実施した結果、すべての主催事業で「よかった」以上の回答が8割を超えており、各事業とも高い評価を得た。

① 松竹大歌舞伎 83.2% (前年度 83.7%)

② 静岡コミュニティダンスプロジェクト Vol.2 ワークショップ 92.2%

③ 踊るひつじプロジェクト公演 87.5%

④ 演劇ネットワーク事業公演 82.1%

⑤ 演劇カタログワークショップ 87.9%

【静岡市清水文化センター】

主催事業「春風亭昇太独演会」の内容に対する満足度調査を実施した結果、「よかった」の回答は89.9%であり、高い評価を得た。

(2) 市民アンケート

市内文化施設等で実施しているアンケートによると、静岡市民文化会館の認知度は70.7%、利用度は62.3%であり、他の文化施設等と比較し、認知度、利用度ともに最も高かった。(静岡市清水文化センターは平成24年7月閉館に伴い未実施)

(3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者が随時、意見・要望や施設利用満足度について記載し、投函できるようになっている。各項目の「満足」「やや満足」の構成比は下記のとおり。

【静岡市民文化会館】

① 職員の応対 76.6% (前年度 60.0%)

② 清掃、整理整頓 81.3% (前年度 60.0%)

③ 案内表示、掲示版 77.6% (前年度 57.8%)

④ 開館日、開館時間 70.1% (前年度 56.6%)

⑤ 空調、音響、照明等 73.9% (前年度 56.2%)

全項目で前年度を大きく上回っており、来年度以降も高い評価を得られる施設運営を

期待したい。ただ、回収件数が平成 23 年度に比べ大きく下がったことから、これを増やし多くの利用者から意見を収集する方策を検討して欲しい。

また、市民文化会館運営協議会を設置し、外部からの意見・要望を積極的に取り入れる態勢が整えられており、より良好な管理運営を目指している点は評価できる。

【静岡市清水文化センター】

全項目で「満足」「やや満足」の構成比が 100%となったが、平成 24 年 7 月の閉館に伴い回収件数が少なかったため、参考値とする。

4 指定管理者の経理状況の評価

収支状況については、概ね予算どおりに執行されており良好である。収入面では、静岡市民文化会館の長期休館及び静岡市清水文化センターの閉館に伴う指定管理料の減額、静岡市民文化会館の「松竹大歌舞伎」収入の減少はあったものの、指定管理者自身の努力による光熱水費等の経費削減により、全体収支状況に問題は見られなかった。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

静岡市民文化会館の保守点検、修繕などの維持管理業務は適切に行われたが、開館から 30 年以上が経過し経年劣化による要修繕箇所が多数みられるため、今後も計画的な小破修繕の実施及び問題発生時における市への迅速な報告に努めてほしい。

また、静岡市清水文化センターは閉館準備にかかる事務処理が適正に実施され、支障なく閉館することができた。

静岡市民文化会館の 1 日当たりの平均利用者数は、東日本大震災による催事自粛が顕著だった平成 23 年度に比べ回復傾向にあることから、平成 25 年度は、平成 22 年度以来の年間 500,000 人以上の利用者数を達成するほか、平成 20 年度から平成 22 年度までの 3 カ年平均利用者数 555,272 人を目指し努力して欲しい。

主催事業は概ねビジョンの理念及び施策に沿った企画内容が展開されているが、公演、ワークショップともに参加者数が目標者数を大きく下回った事業もあるため、アンケートの評価結果や指定管理者自身による事業内容の検証を踏まえ、効果・効率的な事業実施に努めてほしい。特に平成 25 年度は「静岡コミュニティダンスプロジェクト」事業の最終年度であり、事業の効果検証を確実にし、次年度以降の事業計画に反映させることを期待する。また、これら事業の実施を通じ、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（平成 24 年 6 月 27 日法律第 49 号）の趣旨に基づく人材の養成及び学校教育との連携に努めるほか、これまで実施してきた事業を継続するだけでなく、新しい事業の企画・実施により、本施設の魅力向上及びビジョンの理念及び施策のさらなる具現化に努めてほしい。